

平成 25 年度 妙高市教育研究会図画工作・美術部会活動報告

部長 海老名智子（斐太南小）

1 研究主題

妙高の豊かな自然とかかわりながら、表現及び鑑賞の活動を通して感性をはぐくむとともに、豊かな表現力を育てる。

2 研究の概要

- (1) 山や川などの自然のよさや地域素材を生かして描く、つくる、見るなど様々な実践を通して感性を養い、思いを伝える表現力をはぐくむ。
- (2) 児童生徒が豊かに表現する授業実践についての情報交換を通して、自己の取組を見直し、授業力向上に役立てる。

3 研究の実際

- (1) 研究主題についての検討会及び情報交換会 8月22日（木） 14名参加
- (2) 実践発表会及び実技講習会 11月7日（水） 14名参加

上越教育大学芸術系コース 伊藤将和先生を講師に迎え、3部構成による研修会を行った。1部では、小、中、特別支援学校各校の地域性や児童生徒の実態を踏まえた実践紹介をした。児童生徒の状況に応じた取組は、題材の工夫や授業展開へのヒントを与える場となった。発表後は、伊藤先生より部員一人一人に感想と激励の言葉をいただいた。2部では、先生の郷里である福島や大地の芸術祭会場での実践を紹介していただいた。自然や地域の人々、子どもたちを巻き込んだ取組は創造する喜びや楽しさを感じさせ、部員に授業に向かう意欲を与えた。3部では、「着彩段階で失敗してしまう子ども」への対策に向け、先生より「色を楽しむ」着彩の実際を披露していただいた。3原色を基にした実演や美しい色づくり等は、着彩を苦手とする教員にとっても有意義な研修となった。

- (3) 本物を見る、本物にふれる 11月8日（木）新井中学校生徒、上美連教員多数参加
新潟県立近代美術館出前講座として、新井中学校第2体育館を会場に、本物の作品とふれあう機会をもった。ピカソやボテロ、加山又造などの作品10点が展示された会場では、学芸員と教師による授業が展開された。「本物を見ることができてよかった」「すごい！」などの声が挙がり、本物を味わう貴重な機会となった。
- (4) 講演会及び上教大との連携による授業公開 12月7日（土） 妙高市・上美連教員・保護者・地域住民 約50名参加

当市主催、上越美術教育連盟共催の講演会「指導要領改訂の趣旨とこれからの造形教育の在り方」を開催した。講師は、前文部科学省初等中等教育局美術科調査官で環太平洋大学教授 村上尚徳先生である。先生からは、「共通事項」の生かし方や図工・美術を通じた日常生活における感性の育成の大切さなどについてお話いただいた。分かりやすい話からは、創造性や感性の育成には、教師自らが意識して新鮮なものの見方、感じ方を大切にしていかなければならないことを教えていただいた。また、当日は、講演会前に上越教育大学学生による5・6年生を対象とした屏風を用いた日本の美術の鑑賞授業の実践・研究協議会も行った。原寸大の屏風を用いた授業に、教材の重要性を再認識した授業であった。

4 成果と課題

図工・美術部会は、今年度新設された部会である。小、中、特別支援学校それぞれの校種が一堂に会する中での実践発表会は大きな刺激となった。伊藤先生からの実践紹介や村上先生からの「これからの造形活動の在り方」についてなど、教諭自らが日々新たな目でのものを見る、取り組むことの大切さを示唆していただく充実した機会であった。